麻生区区制４０周年記念事業

「麻生区を語る座談会」

日　時：令和４年５月２６日（木）１０時４０分～１１時５０分
場　所：麻生市民館大会議室
登壇者：麻生区区制４０周年記念事業実行委員会

実行委員長	宮野 敏男 氏（麻生区町会連合会会長）
副実行委員長	髙桑 光雄 氏（麻生観光協会会長）
副実行委員長	中島 眞一 氏 （新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム代表幹事）
区　　長	三瓶 清美 氏（麻生区区長）
司会進行	岡田　実　氏（麻生区副区長）

麻生区区制４０周年記念事業　「麻生区を語る座談会」記録

（司会進行：岡田副区長）
皆さまおはようございます。
私は司会進行を務めさせていただきます、麻生区役所副区長の岡田と申します。
よろしくお願いいたします。

本日は麻生区を語る座談会ということで、「フラワーショップまきば」さんにお花を飾っていただきました。非常にいい香りがしています。
本日の座談会は、短い時間ではございますけれども、この実行委員会を支えていただいております、委員長の宮野敏男さん、副委員長の髙桑光雄さん、同じく副委員長の中島眞一さん、さらに行政側からということで三瓶区長に登壇いただき、区制 40 周年を迎えての麻生区の過去、現在、未来についてお話を伺ってまいりたいと思います。

麻生区町会連合会の会長で、岡上町内会の会長でもいらっしゃいます、宮野敏男さんからお話をいただきたいと思います。
宮野さんよろしくお願いいたします。

（宮野委員長）
はい、かしこまりました。
改めまして、麻生区区制 40 周年記念事業実行委員会の委員長を務めております、宮野でございます。
今副区長からもご紹介いただきましたように、私は岡上町内会の会長を、今年で 12 年目になりますけども務めております。
その辺のところをお話しながら、この最初のバッターを務めさせていただきたいと思います。

麻生区が誕生しまして、ちょうど 40 年経ちました。
新百合ヶ丘駅はその 8 年前の昭和 49 年の 6 月に開設されたわけでございますけれども、
新百合ヶ丘ができる前後に近隣一帯に土地区画整理組合ができ、より良い住空間とか環境を作っていこうということで、いろいろな開発が始まったというふうに聞いております。

私自身も新百合ヶ丘駅周辺ができるまでは何もないような土地だったことを記憶しておるわけでございますけれども、その後の発展は目覚ましいものがあり、現在のこのような状況になっているわけでございます。

先ほど私、岡上町内会の会長と申しましたけども、生まれも育ちも岡上でございまして、昭和 22 年に生まれております。
昭和 30 年の少し前に地元の小学校に入学したわけでございますが、その頃の岡上の世帯数は明治、大正、昭和の 40 年ぐらいまでだいたい 90 世帯ぐらいしかございませんでした。
当然ながら人口は少ないですし、小学校に行く児童の数も少なかったわけでございまして私の同級生は 12 名でありました。
戦争直後ということもあり子どもの数は非常に少なく、確か 1 年先輩は 8 名だったと覚えております。
岡上の小学校は柿生小学校の分校でございまして、私自身覚えておりますのが複式学級という授業の仕方でございます。皆さま複式学級って聞かれたことがないと思いますけれども。

1 年生と 2 年生が同じで教室間についたてをはさんで同じ教室で学び、それから 3 年生と 4 年生がまたもう一つの教室で間についたてをはさんで学ぶと。
先生は各教室に 1 人しかおりませんので、1 年生を教えているときは、2 年生は自習。
2 年生を教えているときは、1 年生が自習という、非常にまあ不便というか、昔の寺子屋的なそういう授業をやっていたのを覚えております。

それが 4 年間続きました。当時の柿生小学校は今の柿生中学校のグラウンドのところに校舎が建っておりましたけれども、5 年生になって柿生小学校に行くまで、その分校の複式授業を受けていたわけでございます。

そういうことで、非常に昔ながらの古い時代の教育を受けてきた人間であると私自身考えておりまして、皆さまがどのくらいこれに関してご理解いただけたかどうかわかりませんけども、そういう教育を受けた人間がこの区制 40 周年の記念事業実行委員会の委員長をやっているというのは何かの縁かと思っておる次第でございます。

なお、現在の岡上小学校は、新しい校舎が建って 35 年が経ちます。
各学年 1 クラスから 2 クラスの、小規模ではございますが、楽しく岡上の良さを満喫しながら児童たちが学んでいるということを申し添え、私の過去のお話とさせていただきたいと思います。
ありがとうございます。

（司会進行：岡田副区長）
はい、宮野さんありがとうございます。
戦後昭和 22 年のお生まれということで、当時の岡上の複式学級のお話もいただきました。

続きまして、副委員長の髙桑光雄さんにお願いしたいと思います。
髙桑さんにおかれましては、現在、麻生観光協会の会長もお務めいただいておりますけれども、長らく農協にもお勤めされていまして、麻生区の農業振興を見てこられた方でございます。
それでは髙桑さん、よろしくお願いいたします。

（髙桑副委員長）
ただいまご紹介いただきました髙桑でございます。
今お話がありました通り農協に勤めておりまして、役員もやらせていただきました。

この麻生区が大変緑豊かないい街だということで皆さまからお話をいただいておりますけれども、それにはいろいろな事情等がございます。
その辺につきまして、お話をさせていただきたいと思います。

かなり古い話です。皆さまご存じの方もいらっしゃるかもしれませんけれども、昭和 44 年に都市計画法が変わりまして、その中で市街化区域と市街化調整区域に、分割がされました。
いわゆる線引きということです。

その当時、市街化区域というのはこれから宅地化を進めていくところ、市街化調整区域というのは調整しておいて、将来そこで農業をやっていくということを選択する場所でございました。
これは昭和 44 年に決まったわけでございますが、その時は、10 年ぐらい経ったら変更できるだろうという誤解もあったようでございます。

宮野さんからさっきお話がありましたように、40 年頃まではまだまだ柿生は農業が盛んでございました。
そのために農業を選択しましょうというところもかなりあったわけでございます。
そこで調整区域を選択した地区が川崎の中でも非常に多かったということで、それが今に残っているわけでございます。

市街化区域を選択した農地、それから土地、山や山林などもそうですけれども、市街化区域を選択した方は、今度は宅地並みの課税がかかるわけです。

それではもう生産性が低い農業はやっていけませんので、そこで長期営農継続農地という制度を創って税金を減免してもらいましょうということで、JA はじめ農家の皆さまが一生懸命になりましてそれを勝ち取りました。

10 年間の時限でございましたが、そこで農地をやっていれば固定資産税は軽減されますよということで進んだわけでございます。

しかしながら、皆さまもよくご存知だと思いますけども、昭和から平成の初めにかけましてバブルがすすみまして、土地の高騰が激しくなりました。

この近辺の農家の皆さま、土地を持っている人は出し惜しみしているのではないか、などというお声もあったところでございます。
それから、あまり農業をやってないにも関わらず農地は税金が安いのはおかしいのではというような話もございました。

そんなこともありましたので、国は生産緑地法というのを改正しまして、そこで 30 年間農業をやっていれば、税金は減免し安くしますよという制度を作りました。

そこでは農業をずっとやっていかなきゃいけない、それでやめた場合にはどうなるかと言いますと、市が買い取るか、あるいは農家の人に売り渡すことで農地は残る、あるいは市が公共事業に使うということで進んでまいりました。

それでもう 30 年。平成 3 年からでございますから、令和 4 年で 30 年となるわけでございますが、さらに農地を残したい、あるいは残さなきゃいけないということもありますので、特定生産緑地法というのを作りまして、そこでさらに 10 年税金は低額に抑えるということになりました。

農家の方が亡くなられた場合や、納税猶予制度等もありますけどもそれは割愛をさせていただきたいと思います。

特に大変だったのが柿生、早野、そして宮野会長の住んでいる岡上と、黒川でございました。

そこでは、市街化調整区域にさらに網をかぶせて、農業振興地域という地域を設定しました。
そこはもう農業だけしかできないということでございます。

そういったことでずっと農業は続いてまいりましたけども、やはり農業所得だけではなかなか大変でございます。
それに対し、私がちょうど組合長のときの平成２０年に、ＪＡセレサ川崎直営の大型農産物直売所「セレサモス」を黒川に開業しました。

セレサモスでは、農家の人たちが、たとえ少量の野菜であってもそこに持っていけば自分で値段をつけてそれで売れますよという、地産地消の最たるものでございます。
そういったものをつくりまして、非常に好評でございました。

それに加えまして、そのときにちょうど、皆さまの記憶にも残っていることと思いますけども、中国製の餃子中毒事件がありまして、それで食に対する安心安全の機運が非常に高まりました。
それと相俟って、地産地消というのは喜ばれまして、それにセレサモスも大いに貢献ができたわけでございます。

そういった中で川崎の農業、ましてこの北部の方の農業につきましては、そういう売り場がある程度確保ができて、農家の人たちは非常にやりがいが出てきたというような状況でございます。

これからも農業をずっと続けていくということは非常に厳しいわけでございますが、皆さまがたが地元で採れた野菜を自分たちで消費することは、地域を助けること、地域に緑を残すことにもつながりますので、ぜひ引き続き地元の野菜をお買い求めいただいて、区民の皆さまが新鮮な野菜を召し上がれるようにお願いしたいと思います。

それがこの麻生区が住みやすく、緑も多く、素晴らしい環境を継続、持続する大きな原動力になると思いますので、ぜひともお願いを申し上げたいと思います。

（司会進行：岡田副区長）
はい髙桑さんありがとうございます。
実は私も平成 13 年から 16 年に都市計画課の係長をやっていまして、髙桑さんも都市計画マスタープランの委員でいらっしゃいましたので、都市計画法の問題について様々ご指導いただいた思い出がございます。

髙桑さんからは、昭和 44 年の都市計画法改正の線引きの問題や、農業振興地域の指定、そういった中で農家の皆さまが農業継続をされたこと。さらに平成 20 年にセレサモスが開設されたとき組合長でいらっしゃったということで、そのときのお話や、今後の麻生区の農業と緑ということについても、お話をいただきました。

ありがとうございました。
続きまして同じく副委員長でいらっしゃいます新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムの代表幹事でいらっしゃいます中島眞一さんにお話をいただきたいと思います。
よろしくお願いいたします。

（中島副委員長）
ただ今ご紹介をいただきました。
副実行委員長を仰せつかっております中島でございます。

私は新百合ヶ丘からすぐそばの万福寺という土地で生まれ育ってきまして現在もここに住んでおります。

今髙桑さんのお話がありましたけども、やはりうちも代々続く農家でございました。

いわゆる地元の人間でございます。

ということで新百合ヶ丘駅の周辺の昔話といいますか、思い出話をさせていただきます。
よろしくお願いいたします。

新百合ヶ丘の駅ができましたのは、48 年前、先ほど実行委員長の話もありましたけれども、1974 年のことでございます。
私は 21 歳で学生でした。

当時まだ駅の周辺というのは山や畑ののどかな風景が広がっておりました。

そんな中に、プラットホームが三つもある、大変大きな、急行停車駅がいきなり出現いたしまして、本当に私たち住民としては大きな衝撃を受けたのを覚えております。
といいますのも、私たちがもともと住んでおります万福寺というまちは、今でこそ新百合ヶ丘に一番近く大変便利な場所になっておりますけれども、私の生まれる前には、柿生村という中でいいますと、この万福寺は一番端っこで大変不便な場所だったと聞いております。

この柿生村の中心地には、役所の出張所とか商店街がありました。
柿生駅の周辺が中心地で、私の家からその柿生駅まで行くのには、日に 3 本か 4 本しかないバスか、あるいは徒歩、徒歩では 50 分から 1 時間かかったというふうに聞いております。

その後 1950 年後半頃になりますと、お隣の高石地区に日本住宅公団の大規模な団地ができ始めまして、やがて百合ヶ丘駅が開業いたしました。

私はその時小学校 2 年だったのですけれども、百合丘に、そのときに大変全国でも珍しいスーパーマーケットができまして、また商店街もできまして、私の家から・・・歩いて 20 分ほどかかったのですけれども、バスも頻繁に通るようになりまして今までと比べると、大変便利な場所になりました。

当時、百合ヶ丘団地を題材にいたしました、森繁久彌とかフランキー堺が出演いたしました喜劇駅前団地という映画が大ヒットいたしまして、百合ヶ丘団地は全国的に有名になりました。

新百合ヶ丘の駅が開業いたしまして、しばらくして駅周辺では区画整理が始まりました。
40 年前、区画整理の真っ最中でございまして建物はあまり建っておりませんで、北口に分区によって新しくできました区役所がポツンと一つあるだけでございました。

当時、私は 30 歳になるところでございまして地元で自動車販売の仕事をしておりました。

駅周辺ではペデストリアンデッキなどの土木工事が行われておりまして、基盤整備が進む中で、今でも目をつぶれば整然と区画された建物の建っていない大型店用地や、閑散とした新百合ケ丘の駅前の風景がまぶたの裏に焼きついております。

そんな光景の中で新百合ヶ丘というのは、これからどんな素晴らしい街になっていくのかなという期待感で、私はいっぱいでした。
約 50 年前に新百合ヶ丘の駅が開業したことによって、その昔、柿生まで歩いて 50 分、1 時間かかっていた私たちのこの地域が一変して、大変便利になりました。

しかしその後、バブルの崩壊等によってまちづくりが停滞する時期もありまして、新百合ヶ丘が本当の意味で麻生区の中心となったのは、駅の開業から 20 年以上も経った 1990 年代のことです。

地域の中心が、昔の柿生から新百合ヶ丘へ移行していくこのストーリーは、私たち新百合ヶ丘周辺の住民にとって、なんとも言えない夢のような本当の話ということになりました。

それによって私たちは本当に大きな、恩恵を受けることができまして大変ありがたいと思っております。
ありがとうございました。

（司会進行：岡田副区長）
はい、ありがとうございました。
かつて柿生村の中では、万福寺は端にあって歩いて 50 分、1 時間かかったということですが、新百合ヶ丘駅の開業で、土地区画整理事業や新たなまちづくりが進められたというお話をいただくことができました。

昭和 22 年に宮野会長がお生まれになった歴史からはじまり、今お三方から区の歴史のお話をいただきましたが、続いて現在の麻生区についてということでお話をいただきたいと思います。

行政側ということで三瓶区長から、お話をいただければと思います。
よろしくお願いいたします。

（三瓶区長）
はい、皆さまこんにちは。麻生区長の三瓶です。
初めに私が感じています麻生区の魅力について少しお話させていただこうと思います。

麻生区は、芸術文化が大変盛んで、素晴らしい文化施設も数多くあります。
また、公園や里地里山など豊かな緑や自然があり、それらが住宅地に非常に近いところにあるという環境が非常に良いところだと思っております。

そして何より、まちづくりに対しての地域の皆さまの熱い思い。まちづくりに大変関心を持っていただいて取組を進めていただいております。
そうした活動によって培われた歴史や風土が麻生区というまちを作ってきたのだと感じております。

さて麻生区ですが、ご存知のように昭和 57 年に多摩区から分区いたしました。当時、麻生区の人口は 9 万 6000 人。
この 40 年間で約倍の 18 万人を超える方がお住まいいただいております。

この 4 月に川崎市では第 3 期実行計画というものを策定しました。
これは今後 4 年間のまちづくりに当たっての指針になります。
その指針を作るにあたって、人口動向というものを推計しております。

それによりますと、川崎市もそうですが、麻生区は 2030 年が人口のピークと言われています。

18 万 6900 人、推計によると、これが麻生区の人口のピークと言われています。
その後は減少に転じていくということになっております。

一方、引っ越しされてきた方、されていく方の数字を見ますと、令和 3 年度に転入されてきた方が、約 9,800 人。転出された方は 9,600 人。
ほぼ同数の方が転入してきて転出されているという数字になっております。

街の活力というのはまさしく人だと思っています。
そのためにもやはり選ばれるまちであり続けるということが非常に大事だと感じております。

そこで麻生区といたしましては、やはり安全安心のまちづくり、そして子育てしやすいまちであること。また若い人たちが夢を叶えたいと希望を持てるまちであること、そして高齢者の方、シニアの方たちが元気にいつまでも暮らせるまちである、そういったまちづくりを進めていくことが重要であるということで、今区役所一丸となって取り組んでいるところです。

ただやはり行政だけでは、この大きな課題を解決することは大変難しいものだと感じています。
皆さまのお力添え、知恵や経験をいただいて初めてできるまちづくりだと思っております。

今も申しましたように、年間１万人近い方が転入し新住民となられています。

そうした中で、その地域コミュニティを築いていくというのは非常に大切なことですし、一方で非常に難しいことだと思っておりますが、町内会・自治会を中心に今非常に良いコミュニティを作っていただいております。

そしてこの 40 周年を契機に、さらに強固なコミュニティの絆づくりというのを進めていかなくてはいけないと思っております。

また、麻生区は７区の中でも最も高齢化率が高いまちです。
ただ介護保険のデータなどを見ますと、元気な高齢者、シニアの方が多いというような、そういった傾向も見てとれております。

シニアの方が多いというのは、それだけ知恵や経験が豊富だということが言えると思います。
こういったものは麻生区の宝ですし、財産であると思っておりまして、これらをきちんと次の世代につないでいく。次の 50 周年には中心となってくれるであろう若い方たちにこういったものを引き継いでいく。これも私たちの大きな使命だと感じております。

そして、事業を進める上で大きな力、大きな魅力となっているのが、先ほど申しましたように文化芸術であり、緑、公園、豊かな自然であると思っています。

これらは非常に貴重なコンテンツであり、また世代間を繋ぐ非常に有用な架け橋になると思っておりますので、こういったものも守り育てていかなくてはいけないと感じております。

そのために様々な事業を麻生区としても取り組んでおりますが、この 40 周年を一つの節目として、さらなる発展を遂げられるように、これまで以上に尽力してまいりたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

現状ということなのですが、少し将来も見据えたお話をさせていただきました。
ありがとうございました。

（司会進行：岡田副区長）
はい、三瓶区長ありがとうございました。
街の活力は人だということで、この実行委員会にも 65 団体と多くの方たちに集まっていただいて実行委員会を構成しております。

続きまして、この実行委員会を牽引していただく、区の町会連合会会長としてもご尽力いただいております宮野さんからお話をいただきたいと思います。
よろしくお願いいたします。

（宮野委員長）
はい元気な高齢者の宮野でございます。

前半の実行委員会で今後の取組についてのご紹介がされました。

この実行委員会が立ち上がりましたのが昨年の８月 24 日でございまして、ここに集まる皆さまを初めとして、全 65 団体にご協力をいただきまして、今日を迎えております。
本当にありがとうございます。

麻生区は犯罪や交通事故が少なく非常に緑が多く住みやすい街と言われております。
麻生区の良さを今後もますます発展させていくために皆さまと一緒に麻生区の魅力づくりをやっていけたらと思っております。

この区制 40 周年の中でもいろいろ課題が出てくるかもしれませんけれども、これは皆さまと一丸となって解決できるものと信じております。

良い方向に運べるような動きができたらと思っておる次第でございます。

記念事業の一つにアーカイブ写真の収集というのが紹介されました。

私も数枚提供させていただいたわけでございますけども、分区前の写真には今では思いもつかないようなものがたくさん写ってございます。

この横のスクリーンに先ほどから出ていると思いますけれども、皆さまもこれを見ながら昔はこんなだったのかということを楽しんでいただければと存じます。

アーカイブ写真は今後ホームページやパンフレットなどでも掲載されると思いますけれども、これらは次の 50 周年の一つの題材にもなるかなと思っております。

またこの 40 周年に関連しまして、冠事業というのがたくさん実行されております。
昨年から冠事業を募集しまして、様々な事業が区制 40 周年の冠をつけて実行されつつございます。

10 月 9 日の区民まつりに連なるいろいろな事業が、この新百合ヶ丘駅の南側と北側が一体となって、進められていくものと考えております。

皆さま方もぜひさまざまな事業を一緒に楽しんでいただければと思います。
その動きが次の 10 年、つまり区制 50 周年を迎えるための礎となるものと確信しています。

その時には横浜市営地下鉄 3 号線が新百合ヶ丘まで延伸されて、新しい麻生区、新しい新百合ヶ丘が実現されているのではないかと思いまして、これを私は見ないでは死ねないと思っているところでございますので早く実現して欲しいなと考えている次第でございます。

（司会進行：岡田副区長）
はい、宮野さんありがとうございました。
続きまして髙桑さんからお話をいただければと思います。
よろしくお願いいたします。

（髙桑副委員長）
それでは今現在のことということで、麻生区の観光事業についてお話をさせていただきたいと思います。

先ほどセレサモスの話をさせていただきましたけれども、これも観光資源の一つと思っています。
それと、何といいましても、三瓶区長さんからもお話がありましたように、緑豊かであるということが観光資源でございます。

麻生区は、まだまだ昔の面影がかなり残っております。
特に黒川などは、豊かな自然もたくさん残っています。農業をやっている方は大変でしょうけれども。

皆さま方は、散策とかそういった形で、緑や自然を楽しみにいらしている方もいらっしゃるのではないかと思います。魅力のある散策ルートも多くございます。

今、鎌倉殿の１３人という大河ドラマが話題になっておりますけども、この麻生区には由緒があるといいますか、歴史的に少し関わりがあるところもございます。

例えば弘法の松や王禅寺見晴らし公園のそばに、弁慶の鍋転がしと呼ばれている場所がございます。ここには義経と弁慶が馬で坂を越すときに鍋を落としたという言い伝えがあります。それから九郎明神社（くろうみょうじんじゃ）という、義経にゆかりのある神社も古沢にございます。

それからまた、鎌倉古道も岡上の方にはまだ現存して残っているとこもございますので、観光資源の一つとして、皆さまにもぜひご覧いただきたいなと思います。

麻生区は緑が多いということですが、昨日も行ってきましたが川崎の南の方へ行きますとほとんど緑がないんですね。それに比べますと麻生区は非常に緑が多いです。

先ほどお話しました生産緑地のことですが、防災農地の話題が先日新聞に載っていました。大地震が起きた場合には、どうなるのか。帰宅困難の問題等もあります。

地震や大災害が起きたときには、そういった緑地空間等が残っていますと非常に助かるわけです。農地が持つ防災農地としての役割というのが、今、改めて見直されてもいいのではないかなと思います。

そういった豊かな緑や史跡を活かした観光事業ですが、観光協会では観光ガイドブックの発行のほか、麻生歴史観光ガイドの皆さまにご協力いただきまして、街や緑の中を歩いて紹介するというような企画を実施し、おかげさまで、区民の皆さまに好評いただいております。

この 5 月 27 日には、「麻生の古道・尊氏伝承道をめぐる」と題しまして、歴史観光ガイドとともに王禅寺から早野を巡るという歴史散策を実施いたします。

古い話ですけど、昔「原始から原子へ」ということで、古墳や遺跡などの「原始」から、かつて王禅寺にありました原子力研究所の「原子」をめぐるという散歩道のキャッチフレーズを聞いたことがございました。
かつて王禅寺にありました研究所は今はなくなりまして、キャッチフレーズもなくなりましたけれども、史跡や自然など原始的なところはまだまだございます。

川崎の中でも、麻生区は自然に恵まれていますので、ぜひ皆さまがたには、その自然を守るための協力ということも含めまして、大いに散策していただき、理解を深めていただけたらありがたいなと思います。

それと、今回は柿生地区のことばかり話してしまいましたが、細山地区あるいは麻生東地区にも皆さまご存じの通り香林寺の五重塔ですとか、名所になっている所が多くございますので、そちらもご紹介をしていきたいと観光協会としては思っているところでございます。

（司会進行：岡田副区長）
はい、髙桑さんありがとうございました。
コロナ禍でなかなか遠くへの観光はいけなくなっていますが、逆に地域の身近な場所をもう一度訪ねてみようという、マイクロツーリズムが見直されているということで観光協会の会長のお立場から、緑と自然と観光というお話をいただきました。

続きまして新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムの代表幹事でもいらっしゃいます、中島さんからお話をいただきたいと思います。
よろしくお願いいたします。

（中島副委員長）
はい、ありがとうございます。
私は、新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムという団体から今回の 40 周年記念事業の実行委員会に参加をさせていただいております。

コンソーシアムは 2018 年 4 月に設立をされまして、まだ 4 年という新しい団体でございますけれども、新百合ヶ丘駅周辺の地域の活性化を目指して日々活動をしております。

私は、このコンソーシアムという団体の組織の立ち上げと現在の取組についてお話をさせていただきます。

まず立ち上げにつきましては、10 数年前より新百合ヶ丘駅や新百合ヶ丘周辺ではいくつかの地域イベントが開催されておりましたが、それぞれ主催者が異なりまして、横の繋がりも薄いことから、協賛金をその都度集めるなど、運用、運営上の問題もありまして、協賛者の側からもイベント同士の一体感、ひいては街全体の一体感というものが求められておりました。
そこで、継続的に主催する組織を一本化させて、より一体感のあるイベントの仕組みを考えて実行していくという形態を考えました。

そして出来上がったのが、新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムという団体でございます。

エリアマネジメントを推進していくという観点から、麻生区でのまちづくりの実績が豊富な、三井不動産さん、それから小田急電鉄さんに事務局をお頼みいたしまして、幹事会員としては昭和音楽大学さん、日本映画大学さん、それから三井不動産さん、小田急電鉄さん、それに私たち新百合ケ丘農住都市開発株式会社の５社で運営をスタートさせました。

コンソーシアムという言葉、非常に耳慣れないと思いますけれども、複数の組織からなる団体で、お互いが共同で、何らかの目的に沿った事業や活動を遂行していくためのグループという意味があるそうでございます。

現在のコンソーシアムの取組につきましては、毎月行われておりますしんゆりフェスティバル・マルシェなどのイベントに加えまして、会員様向けの勉強会でありますオープンミーティングや、SNS を使った情報発信、さらには機関誌であります「しんゆり人」の発刊など、新百合ヶ丘の魅力を高めるための活動に取り組んでおります。

また、新百合ヶ丘駅の南口におきまして、清掃活動を毎月定期的に行っております。

更に年２回ほど、新百合ヶ丘駅南口クリーンアップ大作戦と称しまして、多くの会員の皆さまにご協力をいただいて、ペデストリアンデッキの大掃除と花を植える活動を行っております。

活動に関しましては麻生区役所の皆さまと、お互いに協力をしながら行うことが非常に多く、このクリーンアップ大作戦もコンソーシアムの会員の皆さまと麻生区役所の皆さまとの共同作業でございます。

南口のペデストリアンデッキを綺麗にすることによって、来街者や地域の人たちが気持ちよくこの歩行者デッキを利用して、新百合ヶ丘を楽しんでいただければありがたいなと感じております。

クリーンアップ大作戦は、今週末の土曜日にも開催をいたしますのでよろしくお願いいたします。

以上、新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムの立ち上げ、それから取組について簡単にお話をさせていただきました。

コンソーシアムは、麻生区の中心としての新百合ヶ丘が持続可能な魅力のあるまちとしてさらに発展をしていくことを願いまして、これからも様々な取組を続けていきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

（司会進行：岡田副区長）
はい、中島さんありがとうございました。
今回の 40 周年記念事業におきましては、10 月の 8 日、9 日にコンソーシアムさん主催のしんゆりフェスティバル・マルシェを駅南口で実施するとともに、10 月 9 日には、区民まつりを駅北口で開催をするということで、新百合ヶ丘の南口と北口が一体となって、40 周年の祭りを盛り上げていこうというところがメインイベントになりますので、ぜひコンソーシアムの皆さまとも連携して取り組んでいきたいと考えております。

ありがとうございました。

それでは麻生区の過去現在まで進んできたということで、いよいよここからは、麻生区の未来について、それぞれの方からお話をいただきたいと思います。

まず口火を切っていただくということで、三瓶区長からお話をお願いいたします。

（三瓶区長）
はい、麻生区の未来ということで、先ほどもご案内あったかと思いますが、後ほど皆さまの笑顔の写真を撮らせていただきたいと思っています。
これは区民の皆さまの笑顔で 40 周年をお祝いしようという趣旨のものでございます。

区制 30 周年からこの 10 年間、区内には特に大きな行政施設ができたとか、トピックス的な大きなニュースというのはございませんでした。
ただ、この 10 年間、区民の皆さまの笑顔で、皆さまの力で着実に発展をしてきたまちだと思っております。
麻生区の皆さまの力によって生まれた、この笑顔というかけがえのない財産が麻生区の宝だなと思っていまして、その笑顔のためにどういったまちづくりができるのかということは常に考えながら進めているところです。

令和 12 年の開業を目標に、横浜市の高速鉄道 3 号線が新百合ヶ丘まで延伸されるということになっております。
これは非常に大きくまちづくりが進むきっかけになるものだと思っています。
麻生区のまちが次のステージに向かうきっかけになるものだと考えております。

また 2 年後の令和 6 年には、市制 100 周年を迎えます。
それとあわせて、全国都市緑化フェアというのが川崎市全域で開催されるのですが、やはり緑を語る上で麻生区は外せないなという思いが非常にありますので、そこでも麻生区の魅力をしっかりとアピールしていきたいなと思っております。

住んでいて良かった、これからも住み続けたいと思っていただける麻生区であり続けるにはどうしたらいいのだろうと、常に職員とも語り合っております。

これからも職員一同、まちづくりに全力で取り組んでまいりたいと思いますが、重ねてのお願いでありますが行政だけではなかなか行き届かないところもあります。
ぜひ皆さまのお力添えを頂戴したいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

（司会進行：岡田副区長）
三瓶区長ありがとうございました。
続きまして髙桑さんからお願いします。

（髙桑副委員長）
未来の麻生区への願い、思いということでございますが、先ほどからお話していますようにこういった素晴らしい住環境、住みやすい麻生区を残していかなければいけないと私も考えております。
三瓶区長からもお話がありましたように、そのために観光協会としてどんなことをやるのがいいのかなというようなことを常々考えております。

やはり何といいましても緑が豊富なこと、しかしながらそれを守り育てることはなかなかに厳しいというところにも光を当てて、区民の皆さまにご理解をいただきながら、育て残していきたいなと思っております。

特に農業振興地域等につきましては、体験農業といった活動なども、区民の皆さまと一緒になってやっていきたいなと思います。

また、麻生区はアートや芸術のまち、そしてスポーツのまちとして、フロンターレの練習場等もございます。
練習場は現在コロナの影響で皆さまが観覧するのは禁止されているようでございますが、そういった場所も魅力の一つとしてＰＲし、皆さまにおいでいただけたらと思っているところでございます。

いずれにしましても、この麻生区がますます発展しますように、観光協会といたしましても区民の皆さまと一体となって魅力を発信してまいりたいと思っております。

（司会進行：岡田副区長）
はい髙桑さん、ありがとうございました。
続きまして中島さんからお願いいたします。

（中島副委員長）
今、麻生区が誕生して 40 年という長い月日が経ちまして、まちとして本当に大きく成長をしてきたわけでございますけれども、これから先、50 周年 60 周年と、将来に向けても麻生区が大きく発展していくという期待感は区民として、ますます膨らんでいるところでございます。

先ほどのお話にありましたけれども、2030 年、令和 12 年に地下鉄 3 号線が区制 50 周年を前にして、新百合ヶ丘に延伸することが決定しているということでございまして、今それに向けて川崎市としては、横浜市や国との話し合いを進めているところだろうと思っております。

それによりまして、また将来、麻生区がどのような街に発展するのかを想像するということは、40 年前に抱きました、何もないところからのゼロからのまちづくりのスタートに対する期待感と似たものがございます。

麻生区が地下鉄の終着駅としてふさわしいまちとしてさらに大きく発展していくためには、過去においてもそうしてきました通り、行政と民間が一体となって協力をしながらまちづくりを進めていく必要がございます。

まずは、新百合ヶ丘駅周辺の交通渋滞を解消しなければならないということは、いうまでもありません。
40 年前の交通状況と比べれば現在は格段に状況が悪化していると思います。

例えば、駐車場はいくつかのブースにまとめて、数も増設していかないといけないと思います。
また道路などのインフラの整備も必要になってくると思います。

駅周辺の土地には限りがあって非常に狭いということで、これをより有効に使っていけるような、土地の利用計画についても関係者で慎重に議論をしていかなければならないと思います。

その上で、麻生区の一番の強みである、芸術のまちづくりというコンセプトをさらに発展させていく必要があります。

また、先ほどの話にありましたけれども、川崎市の中では一番多いといわれる緑、それから農業も大事にしながら、私たちのコンソーシアムといたしましても、川崎市との連携の中で、

公園やペデストリアンデッキなどの公共空間や公共施設などの利活用について、幅広い利用促進策を検討していきたいと考えております。

さらに商業施設の充実を図りながら周辺の集客を強化することも、もっと考えていかないといけないと思います。

現在麻生区は住んで楽しいまち、住みやすいまち、子育てがしやすいまちというような形で高く評価されているわけでございますけれども、それに加えて、将来は新百合ヶ丘駅周辺を中心になるべく広い範囲から人が訪れて楽しいまち、訪れれば何か楽しいこと、面白いことに出会いそうなそんな期待感が持てるようなまちに発展してほしいなと考えております。

新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムにおきましては今後、持続可能な将来像を見据えた新たな取組を検討していきまして、この地域に住む人、働く人、学ぶ人、訪れる人にとって魅力が感じられるまちづくりをめざして取組をしていきたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

（司会進行：岡田副区長）
はいありがとうございました。
区制 40 周年の取組につきましては、過去を知り現在の自分たちの立ち位置を確認しながら、未来に向けてまちづくりを語るということをコンセプトに進めております。
将来のまちづくりについてということで、具体的なご提言もいただきました。

続きまして宮野さんからお話をお願いいたします。

（宮野委員長）
はい、先ほど区長から令和 6 年に行われる緑化フェアに合わせた麻生区の魅力発信のお話がございました。

私の地元の岡上では、あさおグリーンツーリズムということを進めております。

営農団地では様々な農作物が作られておりますし、ブルーベリー農園とかイチゴ農園が最近は大変人気となっております。

四季折々の草花なども多く見られるところでありまして、外部から岡上を散策する方の姿が数多く見られるのも最近のことでございます。

それから秋には、和光大学と連携した里山アート散歩という芸術イベントが開催され、見どころもたくさんございます。

私個人でも、私の実家の跡地のあずまやとか、あるいは雑木林を開放して芸術作品を飾っていただくというようなことをやっております。
ぜひ岡上にも、足を運んでいただければと存じます。

それから、現在再開発が進められております町田市の鶴川駅周辺ですけれども、今後８年ぐらいで、岡上の中に鶴川駅南口を発着とするバス路線が開設されるという準備が進められております。
町田市、それから多摩市、それから稲城市など近隣の都市との連携を深めながら、一体となって発展していくことを期待している次第でございます。

この１年をかけて麻生区制 40 周年を皆さま方とともに盛り上げ、お祝いしてまいりたいと存じますので、ぜひとも皆さまのご協力をよろしくお願いする次第であります。

（司会進行：岡田副区長）
はい、宮野さんありがとうございました。
過去、現在、未来とお話をいただくというところで進行してまいりましたが、時間が少し残っております。

本日は、実行委員の皆さまが会場に大勢いらっしゃっていますので、当初の予定にはなかったのですが、ぜひ会場の皆さまからもご発言をいただきたいと思います。

麻生区の未来に向けてというようなテーマで、ご発言をいただければと思っております。
それぞれ団体とお名前をおっしゃっていただきまして、お１人１分程度でいかがでしょうか。

どなたか、いかがでしょうか。

そうしましたら、社会福祉協議会、山本浩真会長、突然のご指名で申し訳ないのですがよろしくお願いいたします。

（山本会長・川崎市麻生区社会福祉協議会）
はい、社会福祉協議会の山本でございます。

今回区制 40 周年記念ということですが、私たち、麻生区社会福祉協議会は、行政とともに社会福祉を支えていくという形で、区の皆さま方のお力添えをいただきながら、社会福祉活動に努めてまいりました。

昨今、社会福祉活動を行うにあたりましては、内容が大変幅広く多岐にわたっております。

毎年多くの方が引っ越してこられる麻生区は、素晴らしくていいところだね、住みたいねと思っていただけていると、それは大変素晴らしいのですけども、一方で、新しく社会福祉活動にご協力いただける方が少なくなっているというところに大変歯痒さを感じております。

と言いますのは、やはり今まで地域で福祉を支えてきてくださった皆さま方があって、今の麻生区というものが成り立っております。
ぜひともこれから麻生区にお住まいになる方々、未来の方々も一緒にご参加いただき、社会福祉の活動をシェアしていただけたらという願いがあります。

特に、今年度は民生委員児童委員さんの改選の年となっております。
民生委員児童委員は、地域を見守り、安心して暮らすことのできる地域づくりに取り組んでいただいている方々でありまして、１人でも多くの方と一緒に地域を支えていきたいと願っています。
ぜひとも皆さま方のご協力をいただきながら、多くの方に関わっていただけたらと思っております。

これからも素晴らしい福祉活動が続けられるように、皆さま方のお力添えをいただきながら、一日一日進めていけたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

（司会進行：岡田副区長）
山本さんありがとうございました。
続きまして、世話人会の構成メンバーでもいらっしゃる、お隣にお座りいただいています麻生区文化協会の菅原会長、突然のご指名で恐縮ですが、将来の麻生区に向けてということでお話をいただければと存じます。

（菅原会長・麻生区文化協会）
突然で…。

一生懸命、皆さまのご意見や考えをお聞きして、なるほどなるほど、良いことをみんな言ってくださっている、これこそ残しておかなくちゃ、と思って筆記をしておりました。

私は今、麻生区文化協会の会長などをさせていただいておりますが、こんなに芸術的な環境が整っているまちは他にないのではないかというほどです。大学も、昭和音楽大学をはじめ、玉川大学、田園調布学園大学、日本映画大学、明治大学、そして和光大学の皆さま、どこの大学も麻生区と連携してまちづくりに大変ご協力くださっているということを誇りに思っております。

大学との連携を大切にこれからも続けていただいて、市民の皆さま、区民の皆さまが、より大学と親しく、あるいは大学との連携の中で芸術的なことが行えるようになったらいいなと。

特にアルテリッカしんゆりという芸術祭を続けているわけですけれども、先月やっと終わったばかりです。
もう本当に、大変だったなんて言っちゃあれなのですが、大変なんです。たくさんの演目がありますのでね。

そして皆さまに見ていただいたり、聞いていただいたりしないとお金の上ではとてもとても厳しいわけで、自分もずいぶん苦労していろんなチケットをたくさんさばきました。
でも、楽しんでくださる方がたくさんいますから、このアルテリッカしんゆりもこれからも引き続き盛り上げて続けていくことで、麻生区の顔になるのではないか、こんなまちは他にないと誇りに思っています。

（司会進行：岡田副区長）
はい、菅原さんありがとうございました。
今大学というキーワードをいただきました。日本映画大学の富山さん、また突然のご指名で大変申し訳ございませんがよろしくお願いいたします。

（富山理事長・学校法人神奈川映像学園　日本映画大学）
皆さまおはようございます。

今菅原さんからアルテリッカの話が出て、
チケットを売っていただいた話も出たので、
で、アルテリッカのお疲れ会をしたくなっちゃった
のですけれども。

本日ご登壇いただいた４人の皆さまのお話を、
たくさんメモを取らせていただきました。
ありがとうございました。

これからということで言いますと、やはり新型コロナウイルス感染症の影響は大きかったと思います。そしてコロナの後の暮らしですね。

先ほど中島さんのお話があったように、住む人、働く人、そして訪れる人に向けてということで言うと、コロナで発展したのは「バーチャル」だって言います。これからのまちというのは、リアルとバーチャルが共存するということだと思うんですね。

農業はまさにリアル、ですよね。一方、バーチャルっていうのは、通信とハイテクを使ったいろんな形でのデジタル、DX っていうことだと思います。
リアルをアナログと置き換えても良いと思うのですが、アナログは体を使う実際に目の前にあるもの、まさに農業ですよね。一方のデジタルはバーチャルと合わせたもの。

映画大学では、学生たちが実際に寄って集って実習という形で映画作りをしています。まさにリアルであり、アナログ作業なのですけれども、映画作りに使っている機材はすべてデジタル対応です。そして上映のシステムも全部デジタル化されているんですね。ですから
同じようにこれからはすべての面でリアルとバーチャル、アナログとデジタルが融合して一緒に使われていく。それがこれからの麻生区であり新百合ヶ丘なんじゃないかなと思うんですね。

そういうところにいち早くみんなで一歩踏み出していく、そういうまちになるといいなと常々考えております。

本日はありがとうございました。

（司会進行：岡田副区長）
富山さんありがとうございました。
それでは、音楽というところで、突然また振ってしまいますが、あさお芸術のまちコンサート推進委員会ということで、丸山さんと目が…合ってないんですけれども。
顔をお隠しになられていますが、音楽ということでお話をいただければ。
突然の無茶ぶりで申し訳ございません。

（丸山委員長・あさお芸術のまちコンサート推進委員会）
すみません。
目は合っていないのですが・・

あさお芸術のまちコンサート推進委員会は２２年目になりました。
あさお芸術のまちコンサート推進委員会の前はあさおランチタイムコンサートという名前で麻生区役所ロビーから音楽を発信していましたが、単に音楽を広めるだけじゃなくて、人と人との交流、世代を超えた交流、音楽を通したまちづくりのコンサートを企画することが私たちの目的でした。

エリアマネジメントコンソーシアムの中島様がおっしゃっていたように、年代別の発表などの舞台は今まであったわけですが、単発の活動になりやすいです。
そこで、子どもから大人（シニア）までが一つになる企画をしたいなと考えまして、今年の「秋空のハーモニー」は未来に向かって歌うひとつの合唱団として募集してみました。
それが、なんと１００名越えの応募がありまして、びっくりしました。
あさおの「まち」はすごく活気にあふれ、子どもも大人（シニア）も本当に芸術文化を愛している人が多い「まち」なんだなと思っております。

（司会進行：岡田副区長）
はい、ありがとうございました。
当初予定にはなかったのですけれども、実行委員の皆さまからもということで多くの方にお話をいただくことができました。

最後、三瓶区長からお話をいただいて、まとめとしたいと思います。よろしくお願いします。

（三瓶区長）
はい、本日はお忙しい中、多くの方にお集まりいただきましてありがとうございました。
私たち登壇した４人も、何を話そうか、皆さまに何を伝えられるかということで、ずいぶん話をしてきました。

少しでも、麻生区のこれまで、そして未来が伝われば嬉しく思います。

40 周年は一つの通過点、節目の年であります。
さらに 50 年、60 年という未来に続くまちづくりを、これからも皆さまと一緒に進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

（司会進行：岡田副区長）
はい、三瓶区長ありがとうございました。
本日ご登壇をいただきました、宮野さん、髙桑さん、中島さんありがとうございました。

改めまして拍手で感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

（拍手）

これで座談会を終了いたします。

本日はどうもありがとうございました。